

【都市と美術研究所】2023年3月2日（木）研究会 発表要旨

国際的アートシティとしての天王洲 ー寺田倉庫の役割とまなざしー
Tennoz as an International Art City, The Role and View of Warehouse Terrada

鶴岡 優子（寺田倉庫株式会社 広報グループリーダー）
Yuko Tsuruoka, Warehouse Terrada

1950年に東京・天王洲で創業した寺田倉庫は、運河沿いの倉庫で温度湿度管理の難しい米の保管から事業をスタートした。それから約70年もの間、美術品やワイン、貴重品など専門性が高い保管事業を展開し、独自の技術を蓄積してきている。特に美術品に関しては保管、輸配送、展示、梱包、修復、保険など、ワンストップでサービスを提供している。

また、寺田倉庫は自治体・近隣企業・住民とともに、運河に面する街・天王洲アイルのエリアリバイバルに積極的に関わっている。BOND STREETと名付けた通りは、倉庫の良さを活かした店舗やスタジオが集まるエリアへと変貌を遂げ、ふれあい橋へとつづく通りには四季折々の植栽とアート作品の展示が彩りを添える。天王洲運河沿いのボードウォークからは、運河に浮かぶ船上スペース「T-LOTUS M」、水上アートホテル「PETALS TOKYO」など異国情緒ある景観をたのしむことができる。

2010年代に入ってから、日本の伝統画材を紹介する「PIGMENT TOKYO」、芸術文化発信施設「WHAT MUSEUM」「WHAT CAFE」、日本最大級のギャラリーコンプレックス「TERRADA ART COMPLEX」など、アート関連施設を天王洲に集積させることでアート市場の活性化と文化の共創を目指してきた。さらに近年は、天王洲を国際的なアートシティへと開花させるための活動に力を入れている。2022年にオープンした保税ギャラリーを活用して、海外所蔵の美術品の購入機会を提供するのもその一つだ。また、「TERRADA ART AWARD」の運営を通じて世界へ羽ばたく若手アーティストの支援も行っている。

本発表では、天王洲における寺田倉庫の役割と国際的なアートシティとして牽引するための取り組みについて紹介する。天王洲を本拠地とする企業の主観的な視点を議論に加えることで、天王洲という都市の未来について有意義なディスカッションができる研究会としたい。

【略歴】大学卒業後出版社に勤務。日本各地の魅力を海外に発信するメディア編集長として自治体・企業のPRコンサルティングに従事。2017年よりITベンチャーの広報責任者として東証一部上場企業としての広報環境整備、経営者広報等を担う。2022年1月から現職。東洋経済オンライン、Forbes等で地域創生、アート、スポーツ教育をテーマにした取材記事の執筆。グロービス経営大学院経営学修士（MBA）京都芸術大学大学院学際デザイン研究室 研究員（MFA）、関東都市学会会員。